

令和 7 年度日本規格協会標準化貢献賞等 功績概要

[標準化貢献賞]

(敬称略)

氏 名	主 な 功 績
中谷 雅彦 一般社団法人日本ばね工業会 専務理事	一般社団法人日本ばね工業会 (JSMA) の専務理事として、2016 年より JIS 原案作成委員会の事務局を担当し、10 規格以上の JIS 開発に携わってきた。また、ISO/TC 227 (ばね) の国内委員会の事務局も担っている。 2023 年には、認定産業標準作成機関である日本規格協会と契約を締結し、機械要素分野における JIS 制定の民間主導による迅速化に貢献した。同時に、機械要素分野の産業標準作成委員会の委員も引き受け、生産者の立場として委員会に参加している。 また、ばねの業界規格である JSMA 規格を整備して、ばねに関連する上位規格である JIS、ISO 規格等との整合性の確保も図っている。さらに、JIS を基軸とする規格開発及び標準化戦略を通して、日本のばね産業の持続的な発展と成長とを推進している。 このように、JIS 開発だけでなく、規格開発・標準化に関し、種々の方面から多大な貢献をしている。
鎌田 祐一 UD トラックス株式会社	公益社団法人自動車技術会のパワートレイン部会／燃料噴射装置分科会の分科会長として、2004 年から 2012 年、そして 2016 年から現在に至るまで、実に 15 年以上にわたりエンジンの燃料噴射装置に関する JIS の制定及び改正において中心的な役割を担った。 2000 年以降のディーゼル機関におけるコモンレール燃料噴射システム及びガソリン機関における直接噴射式機関等の燃料噴射装置技術は、単なる CO₂削減に留まらず、PM や NO_x といった有害排出物の低減にも寄与し、総合的な環境性能向上に貢献する重要な技術変革をもたらすものであり、この技術革新に対応した関連 JIS の制定と改正に尽力した。 具体的な実績として、2012 年までの期間で 9 件の D 部門の JIS 制定・改正に携わり、さらに 2016 年以降は 10 件の D 部門の JIS 制定・改正活動を推進した。

氏 名	主 な 功 績
三浦 敏道 一般社団法人日本ロボット工業会 技術部長	一般社団法人日本ロボット工業会の技術部長として、長年にわたり延べ 30 規格以上の JIS 原案作成委員会の事務局を担当し、また新市場の JIS 原案作成委員会では、委員としても参画している。ISO/TC 299（ロボティクス）においても、事務局として、国内委員会の運営、国際会議への出席、同じく出席者への対応など、同様に長年活動している。 新市場制度を活用して開発した JIS B 8451-1（サービスロボットの性能試験方法―第 1 部：衝撃吸収型接触検知外装カバー）では、委員として参加し、その後 ISO/TC 299 へ国際標準化の提案を行っている。また、JIS 初のサービス規格である JIS Y 1001（サービスロボットを活用したロボットサービスの安全マネジメントシステムに関する要求事項）も同様に国際提案し、こちらは既に ISO 31101 として発行済みである。 さらに、機械要素分野の産業標準作成委員会には、使用者の立場として委員会に参加している。 このように、JIS 開発だけでなく、国際標準化含め、30 年以上の実績があり、標準化に対する貢献は大きい。
関口 喬	1998 年に審査員として活動を開始して以来、長きにわたり、QMS、EMS、ISMS の 3 つのマネジメントシステム（MS）の主任審査員として多岐にわたる分野で活躍している。3 つの MS の資格を保有しているため、難易度の高い複合審査においても多大な貢献を果たし、JSA グループの認証事業の発展に大きく寄与している。 特に、QMS では 34 分野、EMS では 24 分野もの専門性を有しており、その豊富な知識と経験に基づき、数多の後進の審査員の指導にも尽力してきた。また、新型コロナウイルス感染症の影響により現地審査が困難な時期には、いち早く遠隔審査に対応し、認証事業の継続に貢献した。さらに、専門性の高い医療分野の審査においてもその専門性を発揮し、信頼性の高い認証の提供に貢献している。 これらの多岐にわたる貢献は、組織の MS の取り組み及び審査登録制度の社会的な信頼性向上に大きく貢献しており、高く評価される。

氏 名	主 な 功 績
石井 末勝 東京都職業能力開発協会 技能検定部 業務課業務係	日本規格協会が開催する「工業高等学校用 JIS 特集版」の選定委員会にて、委員長及び全国工業高等学校長協会事務局長として活動を支え、JIS を工業高等学校・工科高等学校へ普及することに貢献した。 委員長としては、ものづくり人材の育成に力を入れる東京都立六郷工科高等学校長の経歴等を活かし、機械科向けの JIS の選定委員会を統括し、教育現場のニーズを理解した上で実用的な JIS の選定を行った。 全国工業高等学校長協会在籍時には、事務局として、毎年度、委員候補者を日本規格協会へ推薦、JIS・専門分野・教育現場の 3 分野に精通する希少な人材の確保に寄与した。 教育現場における JIS の普及は、生徒たちが社会に出る前に JIS に触れる機会を増やし、標準化の重要性を早期に認識することに貢献している。これは将来のものづくりを担う人材が、国際競争力を高める上で不可欠な品質と効率性に関する知識を習得する基盤となり、日本の産業基盤を支える技術者育成において、JIS の重要性を教育現場に浸透させた点で多大な功績と言える。
渡辺 敏正	企業在籍時には、市場品質問題の改善、市場品質データ分析システム開発、品質向上のための人材育成として全社品質管理体系構築／研修プログラム開発／講師、また協力企業・技術団体等で品質教育の講師を務めた。その豊富な知見を活かし、日本規格協会 広島支部では、「品質管理セミナー 入門コース」「新 QC 七つ道具活用コース」「JIS 品質管理責任者セミナー 専修科コース」「品質管理と標準化セミナー」「信頼性セミナー」の講師を担当し、広島地区の技術者育成・品質技術の向上に寄与した。企業退職後も引き続き専任講師として「信頼性セミナー FMEA・FTA 入門コース」などの公開セミナー講師を務めるほか、FMEA・FTA 同セミナーのテキスト改訂 WG にも参画しテキスト改訂に貢献した。 企業内研修では、新入社員向け研修、QC 検定 3 級レベル対応コースなどの基礎教育から統計解析、実験計画法、信頼性分野などの技術者教育に至る幅広い分野の講師を務めている。高い品質技術の知見に裏打ちされた講義・指導は定評が高く、多くの企業からリピート受注をいただくなど、研修事業に多大な貢献をしている。

[標準化貢献特別賞]

(敬称略)

団体・企業名	主 な 功 績
三露産業株式会社	2008 年より長年にわたり、染色堅ろう度関連商品を製造している。 同商品は製造に不安定な特性があるが、迅速かつ安定的に高品質な製品を継続して提供し、日本規格協会の染色堅ろう度商品の持続可能な供給に多大な貢献をしてきた。 近年は同商品の海外需要が急速に高まり、一時的に供給が滞る事態も発生したが、迅速なレスポンスと柔軟な製造スケジューリングにより、国内外問わず安定的な供給を可能にしている。 日本の繊維製品ひいては海外の繊維製品の品質管理や標準化を根底から支えており、繊維業界には欠かせない功績は標準化貢献特別賞に値する。

[標準化奨励賞]

(敬称略)

氏 名	主 な 功 績
竹島 昌俊 オムロン株式会社 IAB カンパニー 商品事業本部 企画室 法令推進部 主査	機械安全分野における国際標準化活動を 2019 年から開始し、IEC/TC 44（機械類の安全性－電氣的側面）MT 61496-1&-2（電氣的検知保護設備－第 1 部：一般要求事項及び試験、第 2 部：能動的光電保護装置）、MT 61496-3（第 3 部：拡散反射型光電保護装置）、MT 61496-4（第 4 部：映像利用保護装置）、PT 61496-5（第 5 部：レーダ利用保護装置）、MT 62046（人の存在を検知する保護装置の適用）、及び WG14（人の保護のために使用される安全関連センサ）などのエキスパートとして活躍している。特に、IEC/TC 44 MT 61496-1&-2 においては、国内委員会の主査としても活動を実施し、日本コメントをとりまとめ、その反映に尽力し、これらの改訂に寄与している。 また、国内標準化活動においては、2023 年から 2024 年にかけて、主査として JIS B 9704-1（機械類の安全性－電氣的検知保護設備－第 1 部：一般要求事項及び試験）及び JIS B 9704-2（機械類の安全性－電氣的検知保護設備－第 2 部：能動的光電保護装置を用いる設備に対する要求事項）の開発を主導し、これらの改正に貢献した。さらに、現在では、新たに JIS TS B 9704-5（機械類の安全性－電氣的検知保護設備－第 5 部：レーダ利用保護装置）の開発を主査として進め、この規格化においても中心的な役割を果たしている。 これらの活動は、我が国メーカーの競争力の維持・向上に寄与するとともに、国内事業者の労働災害の防止にも貢献するものであり、更に国際規格及び JIS 事業の推進にも資する重要な取り組みである。今後もこれらの活動における更なる発展と活躍が期待される。
小田切 智美	2009 年に審査員として活動を開始して以来、QMS 及び FSMS の 2 つのマネジメントシステム（MS）の主任審査員として活躍している。特に FSMS においては、その立ち上げに大きく貢献し、JSA グループの認証事業の拡大に尽力した。FSMS に関する深い知見を活かし、研修事業においても講師を担当することで、組織における内部監査員等の育成にも貢献している。 また、FSMS の WG に参加し、審査技術の向上にも貢献してきた。専門性の高い医療分野の審査においてもその専門性を発揮し、信頼性の高い認証の提供に貢献している。 その着実な実績は JSA グループの認証事業を支える重要なものである。これらの多岐にわたる貢献は、組織の MS の取り組み及び審査登録制度の社会的な信頼性向上に大きく寄与している。

氏 名	主 な 功 績
湯川 菜穂	2011 年より 14 年間にわたり英訳 JIS の校正を担当している。年間で約 150 件発行される英訳 JIS のうち約 50 件（3,000 頁）の原稿の校正を遅滞なく行っている。通信会社での業務経験（技術書や仕様書などの英訳化）を活かし、また JIS の様式ルールを熟知し、英語表現、文法、用語、様式の不統一や誤りを見つけ出して適切に修正するなど、質の高い英訳 JIS の安定発行に大きく貢献している。
小出 啓介 川崎重工業株式会社 水素戦略本部 特別主席（事業戦略担当）	2017 年から、IEC/TC 100（オーディオ・ビデオ・マルチメディアシステム及び機器）において国際標準化を担当、2018 年からは IEC/TC 100/TA 18 の国際幹事、国内委員長、2023 年からは IEC/TC 100/TA 17 の国際議長として国際標準化活動に従事している。この経験を活かして 2024 年から「ISO/IEC 国際標準化人材育成講座（通称ヤンプロ）」の講師として、「ISO/IEC 国際交渉経験談」の講義を現在まで 2 回登壇している。同氏自身の国際会議での苦労、工夫、教訓についてエピソードを交えて熱く語る講義スタイルは受講生からも評価が高い。実際に国際標準化業務に携わりながら、講師を行うことは貴重であり、現役で活躍する国際役職者の生の声を聴けることは、受講生にとって大変有意義な講義となっている。今後もヤンプロでの講師の継続が見込まれ、引き続き標準化人材育成への貢献が期待できる。 さらに、「ISO 国際標準化セミナー上級編」の講師を担当、季刊 WEB ジャーナル「標準化と品質管理」での国際標準化人材、オープン&クローズ戦略の執筆など、標準化の普及、人材育成に貢献している。